

"100年に一度の大変革の時代"、自動車業界はまさに大きな変革の必要に迫られています。ADASやCASEに基づく技術革新のスピードは、年々加速しています。そのような状況の中、自動車サプライヤは従来の技術に基づく生産のオペレーション効率を高めながら、新規技術への投資・取込みを積極的に図っていく必要があります。各社が掲げているスマートファクトリー化の取組みは、この大きな流れに対応するための必須施策となっています。

本ウェビナーでは、自動車サプライヤ企業のモノづくりに焦点を当てた、仮想化されたデジタル工場による生産ライン効率化ソリューションと、実際のモノづくりの効率向上・品質担保に寄与する統合製造オペレーション管理ソリューションのご紹介をさせて頂きます。業界トレンドに対するシーメンスのソリューション、国内外のユーザ事例、及び一部デモを交え、デジタルを活用した次世代モノづくり実現に向けた要点と、シーメンスがお客様にどう貢献できるかをお伝え致します。

本ウェビナーは2つのテーマをそれぞれ45分(QA含む)、計90分のライブ・ウェビナー形式でお届けいたします。皆様のご参加、心よりお待ち申し上げます。

プログラム	視聴期間	所要時間
1. 生産量増加、在庫削減につながるデジタル工場の活用	2020年10月20日(火) 15:30~16:15	45分 (QA15分含む)
2. 実製造における品質向上・トレーサビリティ徹底に向けた製造IT基盤	2020年10月20日(火) 16:15~17:00	45分 (QA15分含む)

【概要】

- 1. 生産量の増加、在庫削減につながるデジタル工場の活用: 自動車業界においては電気自動車が広まってきております。1車種だけでもEV、PHV、HV、FCVのバリエーションが求められ、同じ部品であっても車種に合ったバリエーションが求められる時代です。つまり少量多品種生産となり生産ラインが複雑化します。その中で競争力を強化する為に、生産ラインの効率化が必要となります。生産ラインの改善に実際の工場で試行錯誤は出来ません。EXCELなどを使用して改善が模索されますが、複雑な生産フローを表現できず、結果として属人化してしまうことが多々あります。デジタル上で工場を再現することで複雑な生産ラインの再現を可能にし、設備のレイアウト、共通工具や専用工具保管場所、仕掛在庫の容量、作業割り当て等を事前検討することで、生産ラインを効率化するソリューションをご紹介致します。
- 2. 実製造における品質向上・トレーサビリティ徹底に向けた製造IT基盤: 自動車メーカの要求は高度化を続け、加えてサプライヤには迅速な対応も求められています。きめ細やかな顧客要望に応じるための多品種少量生産は代表的な例です。1口ットあたりの生産量が少なくなっても、サプライヤにとって品質担保のための手間は変わらず、製造実行に至るまでの情報収集・確認の手間は増え続けています。また、欧米自動車メーカなどを中心に、品質トレーサビリティに関する要求も高まり続けており、受注のための必要条件としてトレーサビリティレベルの監査を課す企業も増えています。シーメンスは製造オペレーションマネジメント (MOM) により、これらの課題解決のご支援をしております。業界のトレンドに合わせ、我々のソリューションがお客様にどう貢献できるか、ご紹介致します。

参加申し込み

お手数ですが右記QRコードよりお申込みください (スキャンまたはクリック) 受付確認後、事務局より動画サイトへの情報をご案内致します

費用

無料(事前登録制)

お問い合わせ: シーメンスデジタルインダストリーズソフトウェア

ポートフォリオ開発本部

E-mail: <u>chihiro.sakaida@siemens.com</u>



